

平成28年度 第2回小平市産業振興基本計画検討委員会 会議要録

1 開催日時及び場所

日時：平成28年12月20日（火）午後2時から3時30分まで

場所：小平市健康センター 4階 第2、3会議室

2 出席者

(1) 委員

8名（小出委員、出口委員欠席）

(2) オブザーバー

滝澤地域振興部長、多摩信用金庫 価値創造部 嗟峨調査役

(3) 事務局

市：板谷産業振興課長、同入澤係長、同鎌田係長、同十河、同飯泉

多摩信用金庫：経営戦略室 中西、価値創造部 二ノ宮

首都大学東京：都市環境学部 太田特任助教、URA室 横手

(4) 傍聴者

2名

3 配布資料

資料① 小平市の産業分析

資料②-1 基礎調査結果の中間報告

資料②-2 基礎調査結果の概要

資料③ 小平市産業振興基本計画及び小平市農業振興計画策定のための基礎調査報告書（案）

資料④ 今後の日程等について

4 内容(議事要旨)

(1) 議題

① 小平市の産業分析

事務局から資料①を用いて、小平市の産業分析について説明をした。

② 基礎調査結果の中間報告

事務局から資料②-1、②-2を用いて、基礎調査結果の中間報告を行った。

③ 小平市産業振興基本計画及び小平市農業振興計画策定のための基礎調査報告書(案)

事務局から資料③を用いて、基礎調査報告書（案）について説明をした。

(2) 質疑応答

(委員長) 今事務局から説明があった基礎調査結果の内容に限らず、私ならこういう産業振興の考え方をするとという意見などを出して欲しい。様々な角度から忌憚ない意見を頂戴

することが、調査結果報告書の方向性を示すことにつながる。

(委員) 正直な感想を言うと、予想を超えたアンケート結果や分析結果がなく新しい発見がなかった。アンケートの回答の中で、意外な結果が出たものがあるか。また、都市計画マスタープランや公共施設マネジメントの検討委員会においては、駅などを起点に市内をゾーニングして分析を行っている。産業の振興策を考える上で、交通利便性の差などによるゾーニングがあってしかるべき。農業においても農地面積の差などによってゾーニングできる。さらに、農業に関しては2022年問題について触れられていない。市としての考え方を示して欲しい。

報告書の取りまとめの方向性はいたって平凡に感じる。特に気になる点として、企業が小平市に立地する条件として特徴がないというのは問題。そのあたりを他の計画と整合性を取りながら新しい政策を打ち出す、例えば、新しい産業を誘致するといった視点が追加されるべきである。

(事務局) 購買行動については、東部と西部で差が大きい。一方で、環境や通勤などの意識については、居住地による大きな差がみられない傾向であった。「意識」よりも「行動」に大きな差がみられた。

(事務局) 周辺自治体のアンケート調査の結果などと比較すると「自然や農」への意識が非常に高いこと、また一方で、経営に対する「積極性」が低いというのが意外な結果であった。

(委員長) もっと「意識」の部分でも地域差が出るだろうと想定していたが、思ったほど地域差は無いという結果で、市全体が同じような「意識」を持っていることは意外であった。また、所得階層についても地域による大きな差は見られず、いわば平均的な結果であった。交通網が整っていて、どの地域に住んでいても主要な都市に容易にアクセスできることが、地域差を生まない結果に繋がっているのではないか。あまり地域差がないという結果は意外であった。

(委員) 小平市の全域が色々な切り口でみても地域差がないというのは少し違和感を感じる。

(委員長) 現在の分析はアンケート調査のみから導き出されたもの。その中でももう少し違った切り口で分析・検討を行っていきたい。

(委員) 一橋学園の商店街を見渡すと、しっかりした建物が並ぶ商店会や新しいお店が入ってきている商店会がある一方で、電車からみると非常に古い建物が並び、密集度が高い商店会がある。震災などのリスクが高い印象のところについて、建物をより安心・安全にという考え方はないのか。

(事務局) 1階で事業を営んでいた方が高齢で廃業し、1階部分を倉庫、2階を住居として利用してしまっていて、メンテナンスが行き届かずシャッター街化しているケースがある。こういった場合、その建物は商店会からは脱退してしまっているため、商店会として情報を収集することすら難しく、手を打ちたくても手を打てないという事情がある。

(委員長) 計画を考えていく上で、商店街の活性化というのは重要なポイントになると思うが、活性化させるためには安心・安全をどのように担保していくのかという視点は欠かせない。商店会の高齢化問題を学生など外部から人を呼び込むことで、見栄えの良い店

- 並みを実現している商店会もある。その辺は今後検討を加えていく必要があると思う。
- (事務局) 店舗リフォームした際に市から補助が出るが、既に事業をしている方より創業者の方が多く利用されている。創業を支援してることが商店街の店舗の刷新にもつながるので、創業支援は重要な方法と考えている。
- (委員) 市民意識調査の就労に関する項目についてn数が少ないのは、就労者を対象としているからか。
- (事務局) そうである。引退されている方は含まれていない。
- (委員) 勤労意欲の項目についてはさらにn数が少ないが、これは非就労者を対象としているためということでしょうか。
- (事務局) その通りである。
- (委員) 「通勤時間が長い」＝「精神的負担が大きい」というまとめは安易。労働時間が不規則、残業時間が多い、やりがいを感じられないなどの方が精神的な負担につながっている可能性が高いのではないかと。
- (委員長) 現在の取りまとめ(案)はたたき台のたたき台といったレベル。他の委員からも平凡との意見をもらっていることもあり、委員の意見を踏まえ変えていきたい。
- (委員) 農業の情報発信基地としてファーマーズマーケットがオープンしたが、その他に情報発信する場所がない。そのため、小平市が掴みどころのない街になってしまっている。情報発信の核となるような施設、観光スポットが欲しい。「道の駅」というアイデアは面白いと思う。
- (委員長) アンケート結果からみると観光という部分は非常に弱いところ。そういったところに目をつむらずに、どうやって強みに持っていくかということを検討する必要がある。
- (委員) 駅前はある程度お店が充実し、また、店自体の新陳代謝もある。一方、人が集まる駅前を少し離れてしまう線路沿いのところなどはシャッター街になっているところが多い。市内には7つ駅があるものの目玉となるところがない。7駅の商店街全てを活性化させることは非常に難しいので、市の中心となる場を作っていくことが商店街を活性化させることにつながるのではないかと思います。
- (委員長) 7駅まんべんなくということではなく、ある程度の選択と集中を行った施策検討という視点は大事。その辺も踏まえて検討していきたい。
- (委員) 基礎調査結果に新鮮味がない。他の自治体の調査結果と同じような結果になっていることから特異性などはないと感じた。過去に行ったアンケート調査の結果などと比較し、どう意識が変化したのかという傾向をみたい。また、調査報告とはいえ、産業振興の道筋の示唆があってしかるべき。そういった内容を盛り込んだ報告書にして欲しい。
- (委員長) 過去のアンケート調査との比較は重要な項目。今後そのあたりを取り組んでいきたい。
- (委員) 配布した資料のほかにも有益なデータは取れているはず。その中には市内の地域差をあぶり出せるものも含まれている。調査報告にまとめる段階では、基礎調査の結果をより精査したい。
- (委員長) 時間の都合上、この辺で一旦議論を打ち切らせてもらいたい。限られた時間の中、

様々な角度から意見を頂戴した。今後の取りまとめや計画の検討に役立てていきたいと思っているが、ただ、本日の短い時間で審議が尽くされたとは思っていない。今日の資料を持ち帰ってもらい、第1回検討委員会と同様に、後日意見などを事務局に提出してもらいたいと思う。事務局サイドもアンケート調査を11月に回収して本日の中間報告ということで、データを読み込めていないところもある。より深くデータを読み込んで、委員の意見を踏まえつつ、産業振興計画に結びつく形でまとめていきたいと思う。

(3) その他

今後の日程等について

事務局から、資料④を用いて、今後の日程等について説明した。

(委員長) 議題に対する意見の提出期限が12月28日までと時間は短いですが、委員の皆さまの協力をよろしくお願ひしたい。皆さまから頂戴した意見は1件、1件慎重にその内容を審査し、必要に応じて再分析などを行い報告書に取りまとめ、その上で、第3回検討委員会において委員の皆さまに審議いただきたいと思う。

(委員) 検討委員会を有意義な議論の場とするため、検討委員会の資料を事前に見たい。確定稿である必要はないので、対応をお願ひしたい。

(事務局) 委員の皆さまに事前に送付できるようにしていきたい。

(委員長) それでは、第2回検討委員会を終了とする。

以 上